

令和5年度教育委員会懇談会議事録

- 1 日時 令和5年8月8日（火）午後2時40分から
- 2 場所 鈴鹿市役所 本館11階 教育委員会室
- 3 出席 教育長（廣田隆延）
教育委員会委員（下古谷博司，山中秀志，松嶋康博，笠井智佳）
- 4 議場に出席した職員
教育委員会事務局教育次長（伊川歩），教育委員会事務局参事（三浦洋子），参事兼教育総務課長（鈴木明），参事兼教育政策課長（小林佐織），学校教育課長（藤見忠），参事兼教育指導課長（西村佳代子），教育支援課長（津田由美子），書記（木葉健介），書記（久住孝大）
- 5 議事
(1) 令和4年度 教育委員会活動の点検・評価について （教育総務課）
- 6 傍聴人 0名

（教育長）ただ今から，令和5年度教育委員会懇談会を開催いたします。会議録署名委員は，定例会に引き続き，笠井委員にお願いします。それでは，協議事項に入ります。教育委員会活動の点検・評価につきましては，6月の教育委員会定例会で報告させていただいた「教育委員会事務局の各課が作成した評価案」に教育委員の皆様と私で加筆・修正を行い，その内容を反映しました報告書（案）について，協議したいと思えます。

それでは，配付資料につきまして，教育総務課長，説明をお願いします。

（参事兼教育総務課長）それでは，資料を御覧ください。昨年度と同様，2つの資料を用意させていただいております。1つは「令和4年度 教育委員会活動の点検・評価報告書」修正案でございます。中を御覧いただくと，黄色の吹き出しや本文の一部が赤字となっている箇所がございます。6月の教育委員会定例会で説明させていただきましたとおり，担当所属が行いました評価案に教育委員の皆様及び教育長に加筆・修正していただき，再度，担当所属で見直しを行っております。その中で，いただいた意見について，各基本事業ごとに黄色の吹き出しに表記し，担当所属の回答を青字で記入させていただいております。加えて，本文を修正した場合には，当該箇所を赤字で表記しております。なお，いただいた意見で軽微なもの，例えば，略語の説明，数値の精査，表現の統一などにつきましては，黄色の吹き出しをつけておりませんが，本文に反映させていただいております。

もう1つの資料は，「令和4年度 教育委員会活動の点検・評価報告書（案）」でご

ございます。こちらは、各基本事業に吹き出しがなく、全てが黒字になっておりまして、今回、共同で行わせていただいた現段階での最終原案となります。資料の説明につきましては以上でございます。

続きまして、今後の予定について説明申し上げます。本日、この教育委員会懇談会におきまして、委員の皆様を確認作業を行っていただいた上で、新たにいただきました御意見なども整理し、仮確定をさせていただきます。その後、仮確定しました評価について、学識経験者から意見を頂戴いたします。学識経験者につきましては、昨年度同様、三重大学の須曾野教授と瀬戸教授に9月から10月にかけて、意見をいただけるよう依頼し、承諾をいただいております。この学識経験者からの意見を記載した点検・評価報告書を10月又は11月の教育委員会定例会に議案として提案させていただき、承認いただきましたら、市議会12月定例議会にて各市議会議員に配付させていただくとともに、市ホームページへの掲載や、教育総務課窓口で冊子を配置することにより、市民の皆様へ公表してまいります。

本日の懇談会におきまして、再度、委員の皆様方に当該案を御検討いただき、令和4年度の点検・評価を作り上げてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。私からの説明は、以上でございます。

(教育長) 教育総務課長から点検・評価報告書修正案等の資料説明及び今後のスケジュールなどの説明がありました。それでは、委員の皆様から御意見を願ひいたします。

(下古谷委員) 各事業の総合評価を見ていると、B評価が多いという印象を受けた。B評価は、「まずまず進んでいる」ということなので、問題がないような気もするが、もう少し、A評価の「順調に進んでいる」事業があっても良いように思う。基本事業「5—1人権教育」について、達成度が105.6%ということで、かなり達成度が上がっている中で、敢えてB評価を付けられたことについて、資料の方で説明が書いてもらっており、理解はできるのですが、もう少しA評価があっても良いのではないかと感じました。

(教育次長) 総合評価について、A B C D評価を導入させていただいた際に、主観的な要素や達成度のパーセントに応じた客観的な評価方法について、御意見をいただいたことを覚えております。今後、新たな教育振興基本計画を点検・評価していくにあたり、総合評価の仕組みをどのようにしていくかを検討する際に参考とさせていただきたいと思っております。今回の総合評価につきましては、担当課の主観的な評価の要素もありますので、A評価にした方がよいのではないかなどの御意見もあろうかと思っておりますので、この評価方法を導入した経緯も踏まえ、見直し等の必要性について委員方の御意見も参考に検討してまいります。

(松島委員) 基本事業「5—1人権教育」のところで黄色で示された「105.6%達成度でもAにはならないのでしょうか」という質問に対する回答として、令和5年度に100%達成することを最終目標にしているということですがけれども、年度単位で評価をする

考え方もあっても良いように思います。仮に、令和4年度の達成度が105%を超えていたが、令和5年度が93%であった場合は、B評価ということになりますし、令和2, 3, 4年度と100%を超えているも関わらず、令和5年度に93.7%であると、累計の評価がB評価になってしまう事象が発生することになります。

(教育支援課長) いじめ防止に向けた取組を熱心に働きかけており、令和4年度でも100%の達成を目指していましたので、B評価を付けましたが、年度ごとの目標に対する評価ということであれば、委員の御意見のとおりA評価を付けることもできたと思います。今年度は、なんとか100%を達成できるように各学校にしっかり働きかけをしていこうと思っています。

(教育次長) 単年度の点検・評価に対し、理由の説明がきちんとできるのであれば、その年の実績値を捉えて評価することも可能であると考えられます。総合評価をするにあたり、総合計画と同じように4年後の最終目標に向けて各年度の目標を設定していくという捉え方と、単年度の実績を維持していくという目標を設定する内容もあると思うので、単年度の実績に対し評価することも視野に見直しをしていきます。

(教育長) 厳しく評価することも大切であるが、点検・評価の内容は、公表をするものであることから、アピールとしての一面もある。いずれの評価に対しても、きちんと説明ができるように、今後も検討して欲しい。

(笠井委員) 評価案への委員の質問に対し、とても丁寧に答えていただいたことに感謝しています。1点目の質問ですが、資料7ページの黄色の吹き出しは、私が質問した内容であり、回答にて詳しく御説明をいただいているのですが、実際に一度もキャリア教育を実施してない学校があるのか教えてください。

(参事兼教育指導課長) キャリア教育自体は、学校の教育活動全体の中で、「〇〇教育」と位置づけて各学校が取り組んでいるもので、特別活動における学級会や委員会活動もそのひとつとして挙げられます。教育指導課としては、キャリア教育を実施するため「すずか夢工房」の活用を位置付けて取り組んでいますが、これまで「すずか夢工房」の活用を必須の取組としていませんでした。今後、「すずか夢工房」を活用していない学校に対し、実践例をもとに、成果や子どもたちが学んだ内容を伝え、一層の呼びかけをしていくなどの個別の対応を考えています。

(笠井委員) キャリア教育に「すずか夢工房」以外を活用した学校はあるのでしょうか。

(参事兼教育指導課長) 働いている様々な方に出会うことを取組の一環として、「すずか夢工房」に登録していない地域の方によるキャリア教育を実施している学校もあります。また、特に小学校では、年間を通じて、学校の中での自分の役割を果たすことをキャリア教育の一環として考えている学校もあります。

(教育長) 様々な取組があるので、キャリア教育を実施しているという指標について、検討をしてください。

(笠井委員) 資料 20 ページのところ、通級指導教室公開授業への教員の参観について、現状は任意であるとのことですが、今後の展望について教えてください。

(参事兼教育指導課長) 校長会で多くの教員の参観を呼びかけていますが、授業の関係で参観が困難な状況となっています。そのため、教員の夏期研修において、5才児健診対象園児及び小学校1年生児童を対象の通級指導教室にあたる「すずっこスクエア」という放課後教室への参観を各学校に呼びかけています。今後、通級指導の必要性が増加していくので、担当者会や特別支援プロジェクト会議等で、どのようにして多くの教員に参観してもらえるかを検討していきたいと思っています。

(笠井委員) 資料 30 ページの回答のところ「見直し」という言葉が重なった文章の構成になっているので、今後、検討いただければと思います。

(学校教育課長) 御指摘の内容について検討させていただきます。

(教育長) ほかによろしいでしょうか。御意見もないようですので、今回の懇談会での協議を踏まえて、点検評価の最終評価案を作成させていただきます

これをもちまして、令和5年度教育委員会懇談会を終了します。ありがとうございました。

令和5年度 教育委員会懇談会終了 午後3時1分

以上会議の顛末を録し、ここに署名する。

教育長 廣田 隆延

委員 笠井 智佳